

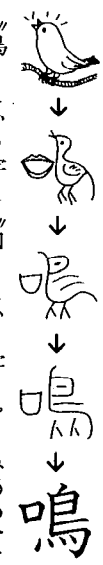
鳴

二年

筆順
オン
クシ

面数 14
ロウ 鳴鳴
メイ
な 11く 11らす 11る

成り立ち



「鳥」という字と「ロ」という字とをくみあわせてつくった字で、「鳥がなく」こと「をあらわしたものでなく」なく」ということばをあらわし、「鳥」にかぎらず、「牛がなく」のにも「虫がなく」のにもつかわれま

す。「なく」のは「こえを出してなく」ので、「こえを出す」といういみにつかわれますが、「おとを出す」といういみにもつかわれるようになり、「鳴る」「鳴らす」というつかいかたもするようになりました。

使い方

▽鳥の鳴きかたには、いろいろあります。せんもんかや、野鳥のあいこうかは、鳥の鳴きかたで、その鳥がなんというなまえか、あてることができま

す。▽げんかんのチャイムが鳴ったので、出てみると、きんじよの山田さんのおばさんでした。

▽鈴虫はすんできれいな声よく鳴きます。

▽女の人の悲鳴がきこえたので、びつくりしてかけつけました。

▽雷鳴は、しだいにとおくなりました。

熟語例

▽雷鳴（「キヤーツ」という、こわいときなどにあげる声）

▽雷鳴（雷の鳴るおと。）

▽雷鳴（大きなおとを鳴らして動くこと。「大山鳴動してねずみ一匹」ということばがあります。大きな山がゆれうごくような大さわぎをしたのに、出てきたのは、ねずみが一匹。大さわぎをしたわりに、けつかが大したことがないときに、つかうことばです。）

毛

二年

筆順
オン
クシ

面数 4
ノ 三毛
モウ
け

成り立ち



どうぶつのしっぽのかたちをあらわしたもので、しっぽの「け」をあらわした字です。もちろん、いまでは、「とりの毛」「かみの毛」など、いろいろな「け」をあらわすのにつかっています。

「毛」はひじょうに「ほそい」ものですから、「ひじょうにほそいもの」をあらわすのにもつかいます。

使い方

▽おかあさんは、毛皮のショールをはおっています。

▽おねえさんは、毛糸のセーターをあんでいます。

▽かみの毛がのびたので、おとうさんに、ハサミできってもらいました。

▽おとうさんと、つりにいきました。さおの先に、毛針という、鳥のはね毛のついたとてもほそい針をつけて、さかなをつりました。

熟語例

▽毛皮（毛がついたままの、けもの皮）

▽毛糸（ひつじなどの毛をつむいでできた糸）

▽羊毛（羊の毛。これで、毛糸や、毛おりものをつくり

ます。）
▽毛筆（どうぶつのしっぽの毛でつくった筆。たんに筆ともいいます。おしゅうじやねんがじょうをか

くときにつかいます。）
▽毛細血管（からだのすみずみにいきわたっている、とても細い血管）